



羽田ミヤコタナゴ通信



通信

羽田でミヤコタナゴが発見された当時、生息数等から見ても羽田は日本一のミヤコタナゴ生息地でした。しかし、時代の流れと共にミヤコタナゴの生息数が減少し、平成14年からミヤコタナゴの姿が確認されることはなくなりました。その後さまざまな取り組みが行われてきましたが、なかなか成果は出ず時間が過ぎ去るばかりでした。

平成23年に地域、行政、試験研究機関、学校等が一体となって協議会を立ち上げ、ミヤコタナゴが再び羽田地域で生息できるよう、多方面からいろいろな取り組みを行ってきました。平成27年度までは、定期的に協議会を開催し、実施事項や計画等の協議を行ってきましたが、より多くの地元の方々に協議事項や取り組み事項を知っていただきたく、このたび「羽田ミヤコタナゴ通信」を創刊し、地域に配布を行うことにより、定期的に情報を共有させていただきたいと思っております。

ミヤコタナゴの復活も、もう一歩というところまでできております。かつて、ミヤコタナゴが生息した環境を復元し、希少種保護の意義を、同じような問題を抱えている地域へ羽田から発信したいと願っております。

トピック

- 1 今までの羽田ミヤコタナゴ再導入に向けた取組軌跡
- 2 念願の取水塔改修
- 3 稚貝発見!!
- 4 平成28年度の取り組み予定
 - 地元会議、専門家会議を開催しました
 - 2年ぶりのミヤコタナゴ試験放流を実施!!
- 5 今後の現地活動について (**参加者募集!!**)

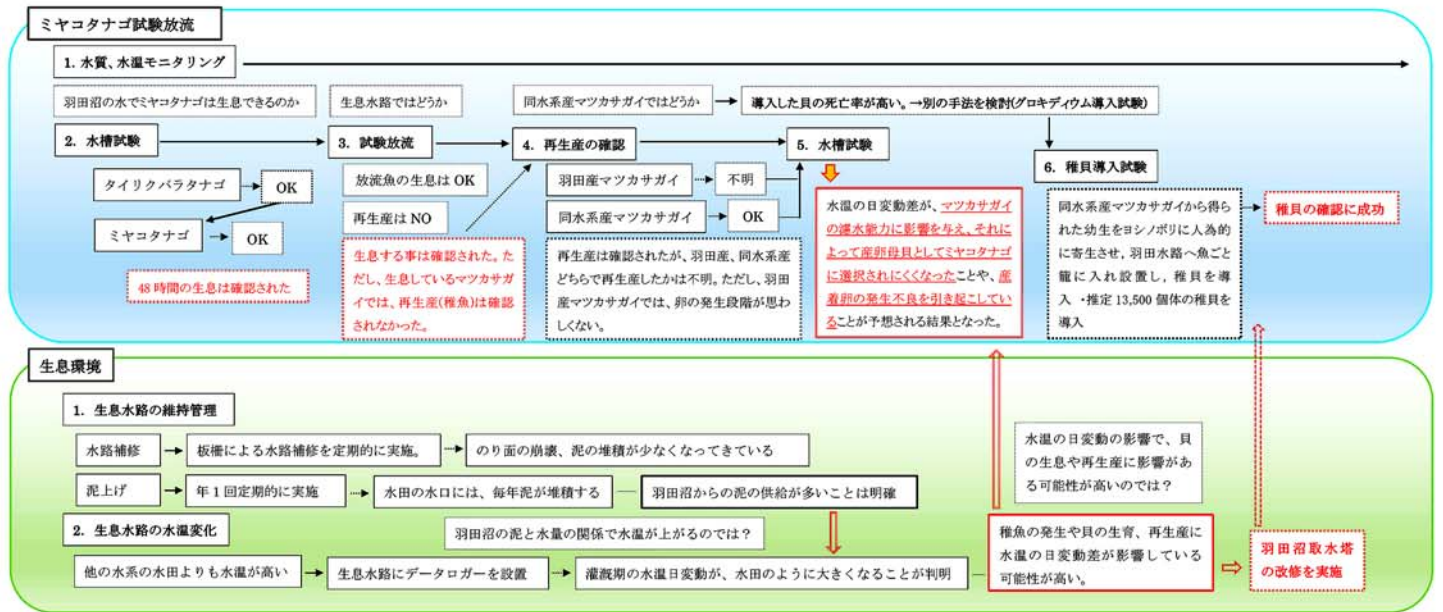


平成28年6月10日の試験放流後、羽田小学校の全校児童とパシャリ!!

1 今までの羽田ミヤコタナゴ再導入に向けた取組軌跡

平成23年1月より、協議会立ち上げに関する打ち合わせ等を行い、平成23年7月に『羽田ミヤコタナゴ再導入に向けた協議会』が発足し、現在に至るまで、様々な取り組みを行ってきました。今まで、「羽田の水質でミヤコタナゴは生息出来ない」と言われ続けてきた事が試験放流の結果により反転し、羽田の水でも十分にミヤコタナゴが生息できることが判明しました。しかし、その一方でミヤコタナゴが子孫を残すために必要なマツカサガイの生育が、思わしくないことも判明しました。同水系産のマツカサガイを平成26年度に100個体移植しましたが、親の貝では羽田の環境に適することが難しい事も判明しました。そこで、関係者が何とか羽田地域にミヤコタナゴが再生産できる環境を復元しようと、昨年度からより具体的な取り組みを行ってきた結果、新たな希望が見え始めました。

平成14年に羽田から姿を消したミヤコタナゴが、地域の方々や、関係機関の絶え間ない取り組みによって、一步一步、再導入に向けて進んでおります。



2 念願の取水塔改修

平成27年10月31日(土)に、老朽化した羽田沼取水塔の改修作業を行いました。

今までは、取水塔の泥抜き穴から水量を調整しながら取水しておりましたが、今後は、より効率的に取水することが可能となりました。ミヤコタナゴやマツカサガイにとっても、優しい取水塔が出来上がりました。

完了した取水塔は、今後使い勝手を確認しながら改良していく予定です。



① Before



② 撤去作業



③ 設置作業



④ After

3 稚貝発見!!

羽田の生息水路に、同水系産のマツカサガイの親を平成26年に移殖し生育状況等を観察してきましたが、羽田の環境に適応できず、死亡する個体が多く見られました。このまま、同水系から親の貝を移植し続けると、同水系産の生息地にも影響を与えることから、親の貝の移植は中止しました。

しかし、生息水路にいるマツカサガイも繁殖もできず弱ってきており、何らかの手法を用いないと、危機的な状況を抜け出せなくなるため、栃木県水産試験場で、平成27年6月25日、7月16日に同水系産マツカサガイから得られた幼生(稚貝になる前の状態)をヨシノボリに人為的に寄生させ、羽田水路へ魚ごと籠に入れ設置し、稚貝の導入試験を行いました。二回にわたる幼生の導入で、推定13,500個体を導入した計算になりました。

その成果を確認するため、平成28年3月12日(土)に幼生を導入した地点から約30mの範囲で、稚貝の確認調査を実施したところ、幼生が成長した稚貝を確認する事ができ、二枚貝導入についての大きな一歩となりました。

今後も稚貝の成長を確認するため、継続的に稚貝の導入に取り組んでいきます。



調査の様子



確認されたマツカサガイの稚貝

4 平成28年度の取り組み予定

今年度も昨年度に引き続き、羽田地区にミヤコタナゴが生息し、再生産(繁殖)ができる環境整備について取り組んでいきます。平成23年に協議会が立ち上がるまでは、行政、地元関係者、試験研究機関等が、それぞれの立場で活動してきました。しかし、協議会が立ち上がり、地元の方々や、行政関係者、試験研究機関等が情報を共有し、1つの目標に向かうことにより、様々な問題点等が明らかにされ、問題に対する解決手法や考え方を共有することにより、迅速に事が推移するようになりました。

特に本年度は、2年ぶりにミヤコタナゴを試験放流し、今までの取り組み成果についてミヤコタナゴに判断してもらう年でもあります。私達の取り組みについて、ミヤコタナゴやマツカサガイは答えてくれるのでしょうか。

その為にも、引き続き出来る事を皆さんと共有して、作業を行っていきます。地域の皆様のご協力よろしくをお願いします。

主な作業予定	平成28年度実施計画											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
会報の発行					○				○			○
水路の補修・環境整備							←→					
ミヤコタナゴ生息調査					○		○				○	
稚貝導入試験				○							○	
周辺水路の生き物調査					○							
環境復元目標の設定		←→										
実施事項の評価・検証							←→					

○ 地元会議、専門家会議を開催しました

5月13日金曜日に、羽田ミヤコタナゴ保存会事務所において、平成28年度の作業計画等について話し合いを行いました。地元関係者をはじめ、関東地方環境事務所、栃木県自然環境課の担当者を交え、昨年度までの作業実施内容の報告と、今後の改善点等について話し合いが行われました。

5月20日金曜日には、大田原市湯津上庁舎会議室にて、関東地方環境事務所、那須自然保護官事務所、栃木県自然環境課、文化財課、県北環境森林事務所、水産試験場、なかがわ水遊園、大田原市文化振興課の各関係者が出席し、平成28年度の取り組み事項について協議を行いました。

会議の結果として下記の事が決まりました。

- より多くの地元の方々に、羽田ミヤコタナゴ再導入に向けた取り組みを知っていただくため、協議会ではなく、定期的に通信を発行し、地域に配布する。
- ミヤコタナゴ試験放流の日時は6月10日(金)10:10~実施。
- 羽田地域に再びミヤコタナゴが生息できる環境目標を設定する。

○ 2年ぶりのミヤコタナゴ試験放流を実施!!

平成28年6月10日(金)に、羽田小学校の全校児童、教職員、地元の方、関係機関の方々と一緒に、羽田小学校から羽田沼周辺の清掃活動を行い、その後、今回で第3回目となるミヤコタナゴの試験放流を実施しました。

試験放流に使用したミヤコタナゴは、栃木県水産試験場で系統保存されている個体です。放流個体数は300匹で、今後の調査等でデータを得るために、今回放流した個体には黄色の標識がつけてあります。今後の調査等で、標識が付いていない個体が確認されれば、その個体は水路内で生まれた個体であるということになります。

平成25年に1,000匹、平成26年に700匹、今回300匹の計2,000匹が、水路に試験放流され、再導入に向けた問題点や、課題について、いろいろな情報を私達に伝えてきております。今回の試験放流でも、ミヤコタナゴからのメッセージが送られてくることを期待しております。



5 今後の現地活動について(参加者募集!!)

○羽田環境保全会による羽田沼周辺での生き物調査が開催されます。

地域の方は、どなたでも参加できますので、都合のよい方は家族そろってご参加ください。

○羽田地区の過去の風景写真を集めております。

かつて、ミヤコタナゴが多く生息していたころ(昭和25年~平成5年頃)の羽田沼周辺の風景写真を探しております。今後、羽田地区にミヤコタナゴを再導入するため、ミヤコタナゴが生息し続けることができる環境整備目標を作成していきます。皆様からご提供いただきました写真をもとに、羽田沼周辺の将来あるべき姿を描こうと計画しております。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



昨年度の様子

問い合わせ先：大田原市文化振興課文化財係
TEL 0287-98-3768
FAX 0287-98-7124
E-mail bunka@city.ohawara.tochigi.jp